

とねわせ ひらたなさいばい カキ「刀根早生」の平棚栽培

果樹試験場 かき・もも研究所

研究のねらい

カキの低樹高化はカットバックせん定が一般的ですが、作業機械が導入しにくい等の問題点があります。平棚整枝は既に「富有」で軽労、増収、品質向上効果が報告されていますが、ここでは、「刀根早生」における作業性や生産性について検討しました。

研究の成果

- ①平棚整枝では地上面での作業が大半を占めるため、作業の安全性が向上するとともに、作業時間も短縮されます（表 1）。ただし、腕を上げる作業時間が長くなります。
- ②平棚栽培樹は薬剤散布液の付着性が向上するため、散布時間および薬量が立木栽培樹に比べて、20～25%削減できます。
- ③平棚栽培樹は立木栽培樹に比べて着蕾数が多くなりますが、冬期せん定時に長い結果母枝の先端を切り返すことにより、着蕾数を抑制できます。
- ④平棚栽培移行当初は果実品質に立木栽培との差は見られませんが、樹勢が落ち着き、棚面への枝の配置が均等になると立木栽培樹に比べて果実重および糖度が優れ（表 2）、着果部位による果実重のバラツキも小さくなります。
- ⑤収量および収穫時期には立木栽培樹と同じです。



図 1 収穫期の状況

成果の活用面・留意点

- ①平棚へは一度に移行せず、樹勢調節のために下枝を半分程度残し、翌年に平棚整枝を完成させます。
- ②SSで防除を行う場合は、走行路を考慮して支柱（とくに周囲柱）を配置します。
- ③側枝として利用可能な徒長枝は 6～7 月に誘引します。

表 1 整枝法と 1 樹当たりの各種作業時間（2001～2002年）

整枝法	摘 蕾	摘 果	夏期せん定	収 穫	冬期せん定
平 棚	68分41秒 (60)	33分24秒 (86)	12分45秒 (83)	27分19秒 (95)	32分17秒 (85)
立 木	82分49秒 (34)	43分09秒 (55)	14分11秒 (59)	33分57秒 (63)	33分38秒 (57)

注) () は総作業時間のうち地上面での作業時間の割合 (%) を示す。

せん定時間には誘引時間を含む。 収穫時間は200果当たり。

樹高は平棚樹が2.3m、立木は3.7m。 被験者は30歳代男性で身長170cm。

平棚樹は2000年2月（12年生）に立木より移行。

2001年の結果母枝数は平棚栽培樹が219本、立木栽培樹が207本。

表 2 整枝法と果実重および糖度 単位：g、Brix%

整枝法	2000年		2001年		2002年		2003年	
	果実重	糖 度						
平 棚	226	14.3	256	14.5	262	15.8	235	14.2
立 木	225	13.8	257	13.9	237	15.0	222	13.5
有意性	N.S	N.S	N.S	N.S	*	*	*	*

注) 有意性の*はt検定により5%水準で有意差あり。

平棚樹は2000年2月（12年生）に立木より移行。

(問い合わせ先：0736-73-2274)